

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和7年度農作物病害虫発生予察情報について

令和7年度農作物病害虫発生予報第12号を発表したので送付します。

令和7年度農作物病害虫発生予報第12号

令和7年12月3日
徳 島 県

I. 野菜
冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.0%、発病度が0.0)。
- (2) 高松地方气象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (令和7年11月6日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が18.9%と、平年(77.3%、11.5%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発病葉率が1.8%と、平年(30.2%、1.6%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が18.6%、発病葉率が0.4%)。
- (2)高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3)薬液は下葉の葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.5%、寄生葉率が0.2%)。
- (2)高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ミナミキイロアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 40.0%と、平年(40.2%)並の発生であるが、寄生葉率は 15.6%と、平年(5.0%)に比べて高い。また、被害果率は 11.6%と、平年(0.4%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (令和 7 年 11 月 6 日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 80.0%と、平年(87.9%)並の発生であるが、寄生葉率は 36.0%と、平年(18.5%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 1.7%、寄生葉率が 0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5 半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 15.5%、発病度が 0.8)。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- (2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も行う。
- (3) 被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5 半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 41.2%と、平年(60.2%)に比べてやや低く、寄生株率は 2.4%と、平年(13.6%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5 半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 35.3%と、平年(21.7%)に比べてやや高く、10 株当たり寄生幼虫及び蛹数は 0.1 頭と、平年(0.1 頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬レタス

菌核病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 14.3%、発病株率が 0.6%)。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病株を放置しておくと多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 15.7%、寄生株率が 0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、発病度が0.1と、平年(0.9%、0.0)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が24.5%、1株当たり寄生虫数が0.1頭)。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

シロオビノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%と、平年(14.9%)並の発生であるが、寄生株率は3.4%と、平年(1.1%)に比べてやや高い。調査圃場の一部に寄生株率の高い圃場が認められた。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 2mm目合いの防虫ネットを被覆し産卵を抑制する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.6%、発病葉率が0.2%)。なお、発病果の発生も認めていない(平年同時期も認めていない)。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、寄生株率が1.0%と、平年(20.3%、3.0%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が27.3%、寄生葉率が5.0%と、平年(35.6%、4.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が11月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か低い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 1) ハウスやトンネル等で密閉保温していると、内部が多湿となり、病害の発生に適した条件となるため、晴天時の日中には換気を十分行うとともに、夜間は暖房機の温度を高め設定して施設内の湿度低下を図ること。
- 2) 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。